

農業・畜産・水産業

島の経済を支える基幹産業の持続的な発展を目指して、生産基盤の強化を図るとともに、技術力の向上やブランド化の推進により、付加価値の高い産業の育成に取り組んでいます。

農業

かつて宮古島は、農業用水のほとんどを降雨に依存しており、干ばつのたびに壊滅的な打撃を受けていました。この「水なし農業」から脱却し、安定した農業用水の供給を確保するため、大規模な**地下ダム**が整備されました。地下ダムにより、干ばつ被害が解消され、適期にかん水することが可能となった結果、さとうきびの単収増加が図られたほか、マンゴーなどの熱帯果樹や施設型農業による野菜栽培といった新たな作物の生産も始まり、宮古島の農業は大きく発展を遂げました。



橋を渡る農業用水

伊良部島の農業は、これまで降雨や小規模ため池に依存し、不安定な用水供給が長年の課題でした。この課題を解決し、安定した農業用水を確保するため、宮古島の仲原地下ダムから伊良部島の牧山ファームポンドまでを結ぶ**農業用パイプライン**を整備。このパイプラインは伊良部大橋の橋梁内部を通過しており、大橋が本島からの重要な送水路として機能しています。これにより、地下ダム水源の活用と伊良部大橋を介した安定供給が実現し、伊良部島は宮古島と一体的な農業振興が図られています。



水の恵みが育む豊かな農作物

地下ダムの完成により、水なし農業時代には難しかった**新しい野菜・果樹の生産**を可能にしました。宮古島拠点産地作物の品目も著しく伸び続け、新たな特産物が生まれています。そのなかでも、マンゴーはその質・量ともに日本一を誇っています。



畜産

デジタル化支援で 経営安定・労働負担軽減へ

肉用牛分娩監視装置等の**ICT機械・装置の導入**を支援し、分娩死亡事故の減少による子牛生産・肉用牛経営の安定化、労働負担の軽減を目指しています。



優良母牛の保留と技術向上で、 安定した肉用牛経営

優秀な母牛を増やし、より良い牛を育てる飼養管理技術の向上を図ることで、肉用牛経営を安定させることを目的として、「**畜産共進会**」を開催しています。令和7年度には市内の県立高校が初出場し、高成績を収めました。農家の高齢化や担い手不足が懸念されているなか、畜産界に大きな希望をもたらす明るい話題となっています。



水産

「育てる漁業」と「ブランド化」の推進で、地域漁業のさらなる発展へ

宮古島市は、豊かな海に囲まれ、多様な水産資源に恵まれた地域です。本市では、資源を守り育てる「育てる漁業」と、水産物の付加価値を高めるブランド化の推進に取り組んでいます。また、宮古島市海業センターを拠点に、水産業の振興や担い手の育成、交流の促進を図り、島の恵みを生かした持続可能な漁業の発展を進めています。

モズク

宮古島のサンゴ礁の海で育てられたモズクは、優れた健康食品としても注目されています。



海ぶどう

国内で海ブドウが自生できるのは宮古島が北限。

自然に近い環境で育てられた海ブドウは、栄養価も高く粒が大きいと、高く評価されています。



アーサ

大浦湾を中心に、2007年からおこなわれているアーサの養殖。

年々収穫量も増え、今では冬の風物詩にもなっています。



クルマエビ

半年をかけて 20 センチほどに成長した車エビは、鮮度を保つため低温で仮死状態にし、活車エビとして出荷されます。

宮古島産の活車エビは首都圏の市場でも人気です。



受け継がれる伝統漁法

伊良部島佐良浜ではカツオの一本釣りが盛んで、県内の水揚げの8割を閉めています。また、伊良部島は日本で初めてパヤオ漁を始めたパヤオ発祥の地であり、近海でのカツオやマグロ漁がおこなわれています。



パヤオはフィリピンの言葉で「いかだ」を意味します。

地産地消

島産食材の有効活用と地産地消の推進

宮古島の豊かな食材を活かし、地元の食産業を活性化する「宮古島市地産地消振興センター」。ここでは、地元食材の加工や飲食店を営む事業者が入居し、専門家のアドバイスを受けながら新商品開発や販路拡大に取り組んでいます。本センターは、地域の事業者を持続的に支援し、宮古島の食の魅力を全国に発信する拠点です。



飲食スペース



ゼロエミッション型植物工場 (水耕栽培施設)

島産食材でおいしい給食

2月の第3金曜日は、「みゃーく食材の日」です。米と牛乳を除き、市内で生産された食材を活用した特別メニューを全ての小中学校に提供します。また、生産現場を紹介する動画視聴で地域の農業・漁業への理解を深める食育にも取り組んでいます。



- 「みゃーく食材の日」メニュー (例)
- ①みゃーく島カレー (豚肉、ジャガイモ、たまねぎ、にんじん)
 - ②すみ島サラダ (きゅうり、パパイア、にんじん)
 - ③マグロフライ ④アロエゼリー

観光

島の恵み

宮古ブルーの美しいグラデーションの海は、強い日差しの中で刻々と変化し、様々な表情を見せてくれます。隆起珊瑚礁の島は高い山や大きな川もなく、降った雨は地下水となり湧き水として海に流れるので、島をふちどる珊瑚礁は豊かな熱帯の生き物を育んできました。そして、きめ細やかなパウダー状の白い砂浜と遠浅の海はレジャーアクティビティを楽しめる最高の環境にあります。

また、水平線から昇る太陽、沈みゆく夕陽、広い星空は人々の心を魅了します。



千年先の、未来へ。

未来へつなぐ 観光のかたち

観光は、本市の地域経済を牽引する重要な産業です。

伊良部大橋の開通や下地島空港旅客ターミナルの供用開始、クルーズ船の寄港などにより国内外から多くの観光客が訪れ、2024年度の入域観光客数は119万人と過去最高を記録しました。こうした観光の広がりには地域の活力を生み出す一方で、豊かな自然環境や地域の暮らしを守りながら発展していくことが求められています。本市では、エコアイランドの理念のもと、観光の「量から質」への転換を進め、訪れる人にも暮らす人にも心地よい、持続可能な観光地づくりを進めています。



エコアイランド
公式サイト



エコアイランド
公式インスタ

